

『測量隊 率いて歩測 伊能忠敬』

伊能忠敬 (1745~1818)



千葉県佐原の出身。56歳の寛政12年（1800年）から文化13年（1816年）まで約17年をかけて日本全国を測量し、「大日本沿海輿地全図」を完成させ、国土の正確な姿を明らかにし、本格的な地図作成の基礎を築きました。享和2年（1802年）の測量では、会津若松～米沢～山形から羽州街道を通り、秋田から弘前に向けて矢立峠を越えたそうです。その測量方法は正確な1歩の歩幅(69.4cm)を積み重ねるものだったそうです。

